

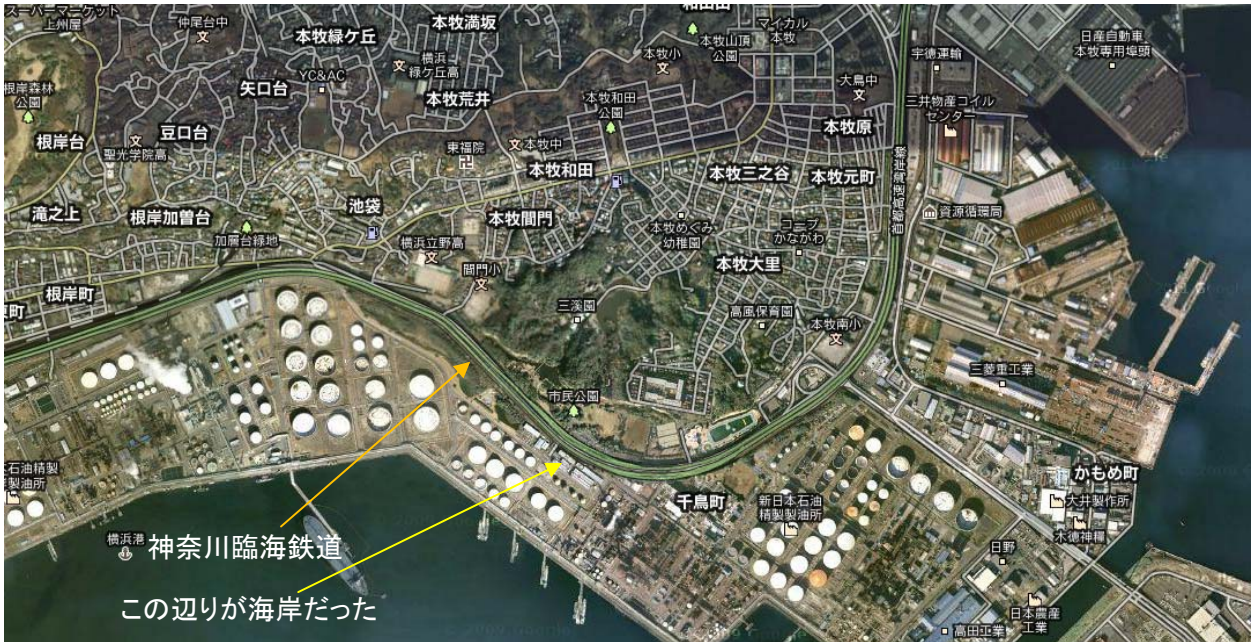


トマソン隊じゃないから



本牧廃線編

by うさお



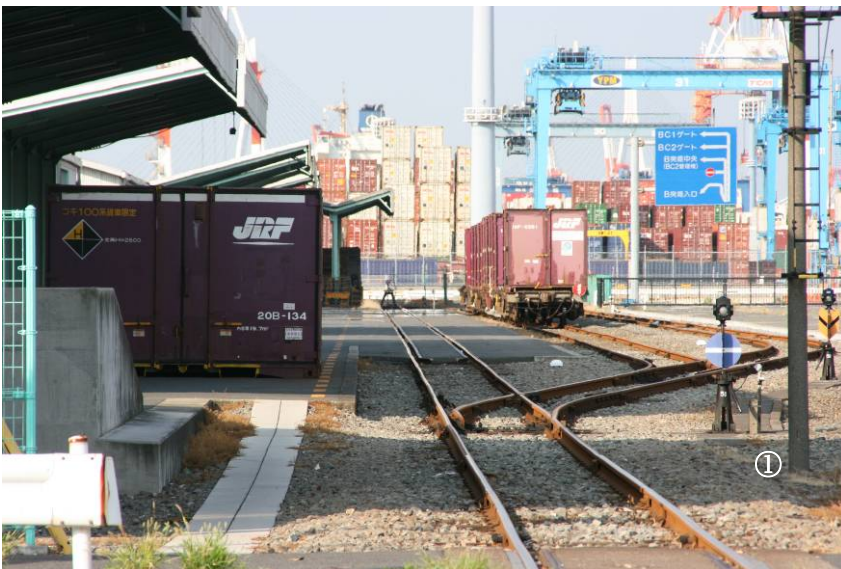
横浜に住んでいる人なら、元町、本牧という地名に何らかの思い入れを持っています。うさおも小さい頃は、本牧の海に海水浴に行きました。国鉄桜木町駅を降り、横浜市営の路面電車に乗って三溪園に行きます。炎天下の道を歩くこと15分。三溪園の山を迂回するとようやく海に辿り着きますが、浜辺に海の家など無かったように思います。まあ、浜だったってほんの僅かなものだったようですし、泳いでいると言うよりは海に浸かっていると言う方が正しいかな。

今では、あたりは埋め立てられて本牧、根岸の石油コンビナートになりました。うさおが中学生、



高校生の時代だと思うけど、神奈川臨海鉄道（貨物線）が敷かれたんじゃないかな、米軍の本牧からの撤退やバブル全盛のときに鉄道よりは自動車の方が持て囃され、貨物線はほとんど廃線同様となりました。本当に細々と運営されていますがその衰退ぶりは目を覆うようです。

ちなみに臨海鉄道と言う名称は、海に面した地域になる



貨物線に付けられるようで、うさおの会社でも東日本大震災で被害を受けた鉄道の調査に行きましたが、鹿島臨海鉄道や岩手臨海鉄道などがそうでしたね。

でもって、この首都高速湾岸線の海側に沿って神奈川臨海鉄道が通っています。愛称は「かなりん」です。貨物鉄道に愛称っているのかなあ。

さて、この場所は本牧埠頭のバス停の「C突堤入口」付近です。有名なスポットらしく時折、結構大型写真機をもったおじさんが歩いているので判ります。大きな通りを横切るように鉄路が一本通っています。以前、タモリの「ぶらタモリ」を見ていたらこの場所を放映していました。タモリは鉄道オタクなんだそうですよ。

何でもオタクぽっくなっち





やうと「山田五郎」とかぶつてきちゃうね。

道路の反対側に「本牧埠頭駅」のターミナルが見えます。

少し望遠で見てください。おっ、いるいる、貨物列車やコンテナが…。

はてっ、貨物線は何処に行くのだろう。この辺りも本牧マイカルの発展に伴い、マンションが増えてきて、工場、倉庫の類が減りつつあるが、



先は見えなくなっている。もう少し、この線に沿って辿ってみよう。

この線は一日に一本か二本しか通らないようだ。踏切はあるが遮断機は無い。軌道の脇には付近の仕事場に勤める人の車が留められているのが、最近の交通事情に考えるとありえない光景で東南アジアのようだ。



この先は住宅とコンテナ置き場だ。「かもめ町」という意外と可愛い名前の地域だが、軌道内にゴミが捨てられているのも、東南アジアっぽい処だ。

ここまで来るともう片側が海になっており、突堤の処で釣りをしている人たちが結構いた。2~3mくらいの高さだけれど、脚立を持ち込んで、堤防の上に登っていました。



ここでその位置をもう一度確認してみよう。写真の右下に○に番号を入れておきました。

- ① 大きな道路を横断している処、「本牧駅」がある処。
- ② 横浜市資源循環局と「横浜本牧駅」がある処。三菱重工が海側にある。
- ③ 「かもめ町」付近で釣りをしているのは、ここを大きく回った日本農産工業の処だ。

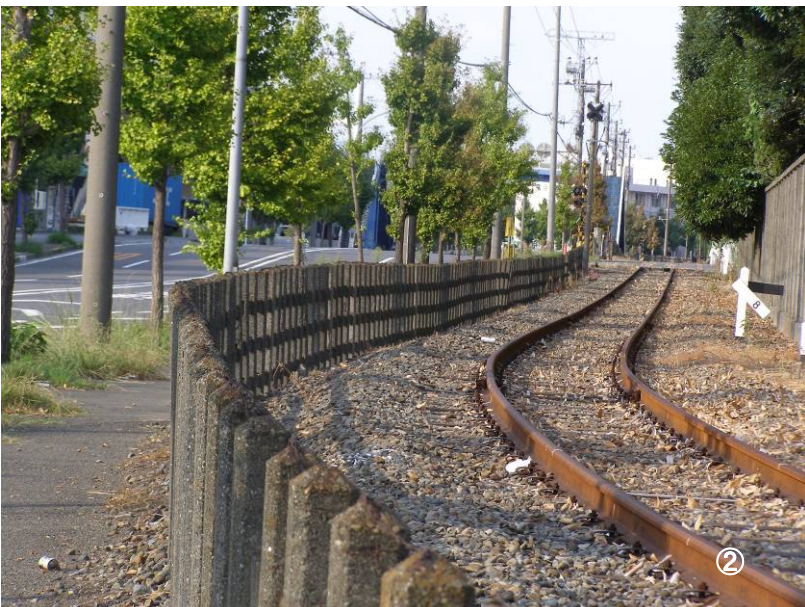




③の日本農産工業を望む信号機は、ちゃんと軌道の脇にあるが、ここから30mくらい離れた場所にある信号機は疑問だ。

明らかに道路の十字路の際にあり、何だかポツンと取り残された遺物のように見える。

これはまさしく、都会の不要物「トマソン」か。いきなり、これを見たら殆どの人が首を傾げるだろう。



もう一度分岐点の②の位置に戻って見よう。道路は大きな起伏があるが、鉄道は起伏を無くし、バラストを積み上げ、曲線部には片側（外軌側）を高く盛り上げてある。これは遠心力を緩和させるため、カントを付けるという表現をします。

周りのコンクリート柵がレトロで泣けるような、チープのような不思議な懐かしさを覚えます。う~ん、廃線マニアだなあ。



分岐の処に「横浜本牧駅」が見えてきますが、貨物駅なので客扱いをしていませんので、人っ子一人も見当たりません。



先ほどの「本牧埠頭駅」には、C61だかの蒸気機関車がまだ大事に残されており、運の良い人は定期運転をみる事が出来るとか。



しかし、軌道はあまり整備されていないのか、ガタガタだ。写真は震災前なので、その影響を受けた訳ではありませんよ。

最後は陸橋の上から。高速道路の脇を通って、「根岸駅」に向かう線を撮ったものです。完全な廃線マニアだなあ。



ところ変わって、横須賀は田浦。ここには軍用線の跡があります。失礼、今でも貨物の搬送に用いられています。「田浦港軍用専用線」と言います。

ここがまず第一のスポット。トンネル前の道路横断箇所、くつきりと鉄路が残っています。この近くで造成工事が始まっており、下手をするとこの廃線も無くなってしまいかもかもしれません。

もしかして使われているのかもしれませんが、トンネルの手前でプツリと途切れています。

車の止めてある、Caccoのいるあたりですね。軌道の上にそのままアスファルトを敷いているので、まる分かりです。

このトンネルは昔は併用隧道で、片側を貨物鉄道、片側を軍用道路としていたものと思われます。実はこのトンネルの中に秘密の地下道があったらしく、トンネルの壁面のその跡が残っていま



す。コンクリートで塞いだ跡です。

このトンネルも横須賀要塞のひとつだったのかもしれませんが。この馬蹄形の埋めた跡が4~5個、ありました。

造成している山の斜面に地下道の入り口があったのかも・・・。

少なくともそれは今の工事で潰されていそうだな。

うさおは地下道の散策は整備されたところしか行かないよ。足腰が弱くなって屈んで移動するなんて至難の業だ。

残っていた転轍器だ。先ほど、うさおが立っていた辺りだね。直進するものと、海側の倉庫・工場に向かうワンドした軌道だ。

さて、これは果たして動くのか。ロッドはちゃんと付いているし固定のボルトもしっかりしている。

動かしてみたかったが、人目やクルマの往来が激しく、少し気後れをしてしまいました。

(いや、無関係の人が触っちゃだめですって・・・)

この軍用専用線は特徴的なものがあり、それがこの直角に交差した処だ。以前に横浜の大栈橋近くの東西倉庫跡から見つかった



転車台の軌道がこういう直交軌道だったですね。

もう少しアップで見ますとこんな感じ。線路ってイメージじゃありませんね。路面電車の感じかなあ。





どこもかしこも夏草に覆われ、
かつての栄華はいまいづこ…っ
て荒城の月じゃないんだから…。



何故か渋い顔のうさお、眩しい太
陽はうさおにはあわないのさ。



トンネルを抜けてすぐに海上自
衛隊第二術科学校が見えてきます。
この先に行っても軍事施設の跡は
ありますが鉄路はありません。
横須賀線田浦駅の近くに立派な煉
瓦積み隧道がありました。





もう一度依頼品を見てみよう…。じゃあなくて地図を見てみよう。小さくて申し訳ないが①が途切れている軌道とトンネル及び地下壕入口（らしきもの）、②は直交している処。①と②の間に転轍器がありました。

海側に行くと先ほどの海上自衛隊第二工科学校、ご覧の様な米海軍の燃料補給基地、横浜ベイスターズの屋外練習場、戦争遺跡がありました。田浦はマニアにはたまらない街ですねえ。



線路の脇に車を置いて。写真を撮っていたら突然パトカーが…付近の人が不審者ありと言うことで通報したのか？

急いで車の処に駆け帰り、エンジンをかけて、さもすぐ移動しますよ言う振りで、パトカーが近づいてきたら出ようと待機していた



ら何事もなくパトカーは行ってしまった。うさおは思い込みが激しい方だからね。ちょっと心配しちゃいました。場所的には③の辺りです。